

【総合的な探究の時間】

神戸医療未来大学を訪問！留学生への取材・インタビュー座談会を実施

10月9日（金）午後、本校2年生の「総合的な探究の時間」（地域探究・多文化共生グループ）の生徒が、地元・福崎町にある神戸医療未来大学（姫路キャンパス）を訪問し、アジア各国からの留学生5名への取材・インタビュー活動（座談会）を実施しました。地域でともに暮らす留学生のリアルな声や想いに触れ、多文化共生や地域の魅力・課題を「自分事」として深く考える貴重な機会となりました。

1. 緊張のアイスブレイクからスタート——日本や福崎を選んだきっかけ

大学の会議室で行われた座談会には、ネパール（チベット仏教）・スリランカ（キリスト教・仏教）・バングラデシュ（イスラム教）出身の留学生5名（人間社会学部 経営データビジネス学科）と大学関係者の皆様が参加してくださいました。

最初は少し緊張していた本校生徒たちでしたが、温かい笑顔に迎えられて対話がスタート。「なぜ日本や神戸医療未来大学を選んだのか」という質問に対し、留学生からは「日本の治安の良さや、働きながら学べる環境に魅力を感じた」「アニメや日本のドラマ『おしん』を見て憧れていた」「オープンキャンパスで先生や先輩がとても親切だった」といった声が寄せられました。

2. 大学での学びと地域に根ざした実践活動



留学生の皆さんは、大学でIT・AI・SDGsなどを取り入れた「経営データビジネス」を精力的に学んでいます。さらに、学内での学問にとどまらず、地元・福崎町の特産を活かした「桜はちみつ」の商品開発や、福崎町商工会のPR動画制作など、地域と連携した実践的なプロジェクトや小学校との交流授業・秋祭りなどのイベントにも主体的に参画していることが紹介されました。福崎のまちに貢献しようと前向きに取り組む留学生の姿に、本校生も強い刺激を受けました。

3. 福崎町での生活実感——言葉の壁や文化の違いを乗り越えて

インタビューでは、日本での日々の生活実感についても率直な意見交換が行われました。「関西弁や敬語、漢字の難しさに苦労した」「日本人のゴミの分別や時間厳守といった生活マナーを覚えるのが大変だった」「母国の食文化（ベジタリアン対応など）に合わせた食事の工夫をしている」など、異国の地で暮らすリアルな苦労や工夫が語られました。また、将来のキャリアについて「日本で学んだ知識や技術を活かして、将来は母国の発展に貢献したい」「起業を目指したい」と語る高い志に、生徒たちは真剣な眼差しで耳を傾け、メモを取っていました。



4. 生徒の気づきと今後の展開

今回の取材活動を通じ、生徒たちからは以下のような感想が聞かれました。

- 「最初は言葉が通じるか不安でしたが、身振り手振りを交えながら直接対話することで、お互いの想いが通じ合う楽しさを実感しました」
- 「福崎町に住む留学生の皆さんが、町の特産品づくりやPRに熱心に関わっていることを知り、地域の見方が大きく変わりました」

今後は、今回のインタビューで得られた知見をもとに、福崎町を訪れる外国人観光客や町役場（観光課など）への取材へと探究活動を広げ、「多文化共生と地域の活性化」に向けた提言をまとめていく予定です。11月4日（水）に校内で開催される「中間発表会」に向けて、スライド資料の作成や発表準備を進めてまいります。